

防火・防災について

熊本市立河内中学校

中川

和仁

僕は正直、防火・防災について余り興味が
なかった。学校での避難訓練でも真剣に取り
組めずにいることがあった。しかし、そんな
僕の考えを一転させる出来事が起った。

三月十一日に起きた東日本の大震災である。
部活が中止され、家に帰りテレビを点けたと
きの衝撃はすさまじかった。次々に家から水に
流され、堤防を越えていく様子やテレビに映

された。波から車で逃げている人もいたが、
助からないだろうと思っただ。

この震災で驚いたことは、津波の規模だけ
じゃなくて、現地の防災についてだった。世
界でも最大規模の堤防もあった。そうだし、町
全体で防災訓練していた町もあったという。
しかし今回の津波はその堤防も越えていっ
た。たまたま人の死者、行方不明者を出した。

助かった人の多くは、すぐに避難した人々
だと思おう。避難訓練や防災の大切さを実感し

た。自分があの現場で生き残れる自信が無か
った。日々の避難訓練での意識がたりなかつ
たと反省した。

現地の人々の防災意識は決して低かつたわ
けじゃない。たくさんの生存者を出した学校
は日ごろの防災訓練がしつかりとしていて
生徒一人一人が次に行動すべきことを分かっ
ていて迅速に避けていた。僕より小さい子供
がテキパキと避難する姿を想像するといふ人
だが恥かしくなってきた。

僕は、今まで津波訓練や火災訓練などをし
てきたが、訓練だからという意識があっ
た。先生に怒られるころマジメに参加してい
るフリをしていった。今思えば一番最悪な参
加者だと思う。本当に災害にあつたときは
もう遅いし手遅れになる。その前に自分が
とるべき行動を知るべきだと思つた。
この東日本大震災で僕は避難訓練の大切さ
と、自分の防災に対する意識の低さについて
知るこゝろができた。とても大変な時期ではあ

るが日本全体が協力して復興していかねば
ならないと思う。そして僕自身、もう一度
防災について考え直して日々の生活を送って
いきたい。